



特集 徹底理解！ おむつ皮膚炎

1. 「おむつ皮膚炎」総括

1. 「おむつ皮膚炎」を理解する

(1) 予備知識：「おむつ皮膚炎」を構成する要素②

真菌症とは？

佐藤友隆

帝京大学ちば総合医療センター 皮膚科 教授

Point

- ▶ おむつ皮膚炎の構成要素のなかには皮膚常在菌の関与も忘れてはならない
- ▶ 湿潤環境が生み出す皮膚表面環境の変化が、局所 pH の上昇にもつながり、カンジダをはじめとする真菌の増殖を促す
- ▶ 湿度と尿、便にさらされる環境が皮膚を変化させて真菌症を生じやすくする
- ▶ 治療の基本は頻回の排泄ケアと発汗に注意した湿度コントロールである

はじめに

おむつ皮膚炎 (diaper dermatitis；以下 DD と略します) における真菌症の関与について WOC としてはよく知っておく必要があります。

DD において重要な点は、排泄物による高湿度、CO₂ 濃度上昇、刺激性の酵素 (リパーゼ、プロテアーゼ) pH の上昇、摩擦による物理的障害などが挙げられます。DD で問題となる真菌症としては、カンジダ症、白癬、癬風があります。さらには、カンジダ症、白癬、癬風があります。さらには真菌ではありませんが、紅色陰癬という細菌感染症にも注意が必要です。表 1 に増悪因子をまとめます。

鑑別診断では、脂漏性皮膚炎、乾癬、扁平苔癬、尋常性天疱瘡、ヘイリー・ヘイリー病、皮膚悪性腫瘍としての乳房外パジェット病などがあります。診断には、KOH 直接鏡検、スワブによる培養を行います。紅色陰癬にはウッド灯検査が有用です。その他の疾患との鑑別には皮膚生検を行うこともあります。

治療については、頻回のおむつ交換と局所の洗浄と外用抗真菌薬です。「皮膚真菌症ガイドライン」でも記載されていますが、比較的以前からある外用抗真菌薬でも十分に効果がある点を意識し

表 1 おむつ皮膚炎の増悪因子のまとめ (文献¹⁾ より改変)

増悪因子	作用機序
湿潤	皮膚の浸潤環境の増悪、皮膚のバリア障害
摩擦	おむつと皺との間の摩擦が皮膚を障害する。仙骨部など
尿	尿素による刺激。アンモニアを供給してしまう
便	リパーゼ、プロテアーゼの存在が皮膚を障害する。フィラグリントパクの分解と皮膚への水透過性の亢進につながる
アンモニア pH 上昇	細菌フローラによる尿素から水酸化アンモニウムへの変換
微生物	細菌、黄色ブドウ球菌、β溶連菌、大腸菌、 <i>Bacteroides</i> spp., <i>Candida albicans</i> 80 ~ 90% その他 <i>Candida tropicalis</i> , <i>Candida parapsilosis</i> , <i>Candida glabrata</i>
抗生物質の使用	広域スペクトラム抗生物質の使用はカンジダ属を増やす
その他の因子	亜鉛欠乏症 (陽性肢端皮膚炎)、脂漏性皮膚炎など

ておく必要があります。

はじめに真菌について簡単な知識を整理します。

おむつ皮膚炎 (DD) に関連する皮膚真菌症

総論

使い捨ておむつの開発は 1940 年代に始まり 1960 年代に大衆に普及しました。とくに関連した感染症は皮膚カンジダ症 (図 1) です。その他、白癬、マラセチア感染症、真菌に似たもので紅色陰癬があります¹⁾。

DD の発症機序は、乳児および高齢者のおむつ利用者に共通の問題です。本稿の目的は、おむつに覆われる部位の皮膚真菌症についての臨床、疫学、診断および治療の特徴についてまとめることです。

真菌症

真菌は培養形態から、糸状菌いわゆるカビと酵母に分類されます。カンジダ、マラセチアは酵母様真菌、白癬は糸状菌です。前者は常在菌、後者の白癬は感染症です。



図 1 おむつカンジダ症：膜様鱗屑

真菌は元来、お風呂場の黒カビを想像するとわかりやすいですが、掃除しても掃除しても再発する、環境に多数存在する微生物であり、地球環境全体においては貴重な分解者です。正常皮膚に常在するものもあれば感染症であるものもあり、疾患名と原因菌を理解しておく必要があります。